

令和2年度(2020年度)

管理事業名	図書館事業				総合計画の体系	大綱 4 政策 4 施策 2	子育て・学び 生涯にわたり学べるまちづくり 生涯学習環境の整備
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 10	教育費	(項) 5	社会教育費	(目) 4	図書館費
部局名	地域教育部	予算執行所属	中央図書館				
予算大事業名 図書館事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名 (款)教育費 (項)社会教育費 (目)(仮称)健都ライブラリー建設費 図書館事業 (款)教育費 (項)社会教育費 (目)北千里小学校跡地複合施設建設費 図書館事業						
事業の目的と概要 図書館法第2条に基づき図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション、視聴覚教育等に資することを目的とします。 中央図書館と7つの地域館と2つの分室で事業を実施しています。また、中央図書館には自動車庫1台を配備し、図書館から離れた地域に月1回巡回し事業を実施しています。多様化する市民一人一人の生涯学習を支援し、教養や文化に資することにより教育活動の充実を図ります。							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
貸出点数	点	3,604,632	3,294,311	2,559,423	図書館で貸出された資料の点数 (個人貸出、団体貸出、広域貸出を含む)
予約受付件数 []内はWEBでの予約受付 件数	件	1,095,730 [850,794]	1,091,150 [868,548]	1,130,473 [974,507]	図書館で受け付けた予約(リクエスト)の件数
成果 の説明	・「吹田市立図書館基本構想」を策定し、計画を実施しています。 ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発令による休館及び中央図書館耐震補強等改修工事による長期休館の影響から、貸出点数が減少となりましたが、予約(リクエスト)の件数は、WEBでの予約受付件数が増加となったことから約39,000件増加しました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
経常収入				
国庫支出金(経常費用充当)	244	205	38	△167
府支出金(経常費用充当)	122	35,611	36,019	408
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	1,749	1,412	2,034	622
経常収入 小計(a)	2,115	37,228	38,091	863
経常費用				
給与関係費	462,915	444,981	470,416	25,435
物件費	462,886	503,416	632,640	129,224
維持補修費	7,181	3,407	126,788	123,380
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	12,948	12,704	10,679	△2,026
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	137,089	135,415	173,349	37,934
費用				
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	30,694	29,644	32,209	2,565
退職手当引当金繰入額	24,897	738	34,020	33,283
支払利息	16,868	15,069	13,797	△1,272
その他	36,190	36,480	29,529	△6,951
経常費用 小計(b)	1,191,669	1,181,855	1,523,428	341,573
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△1,189,554	△1,144,627	△1,485,337	△340,710
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	5,128	2,859	15,997	13,138
特別収入 小計(d)	5,128	2,859	15,997	13,138
特別収入 小計(e)	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	3,266	4,249	796	△3,453
特別支出 小計(f)	3,266	4,249	796	△3,453
特別収支差額(d)-(e)=(f)	1,862	△1,390	15,201	16,591
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△1,187,692	△1,146,017	△1,470,136	△324,119
一般財源充当額	1,295,772	1,391,000	1,991,750	600,750
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	108,080	244,982	521,614	276,631

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	129,224千円増のうち、健都ライブラリー工事管理委託料9,667千円、指定管理委託料49,234千円、中央図書館耐震補強等改修工事に係る工事監理委託料7,765千円、備品購入費57,200千円等
維持補修費	123,380千円増のうち、中央図書館耐震補強等改修工事に係る工事請負費113,569千円等
減価償却費	中央図書館耐震補強等改修工事及び健都ライブラリー開館に係る図書館建物及び重要物品(図書館用書架等)37,934千円増

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	2,013	37,173	38,121	948
行政サービス活動支出	1,025,198	1,037,085	1,312,827	275,743
行政サービス活動収支差額	△1,023,185	△999,911	△1,274,706	△274,795
投資活動収入	1,780	-	163,328	163,328
投資活動支出	116,188	580,335	1,355,905	775,570
投資活動収支差額	△114,408	△580,335	△1,192,577	△612,242
財務活動収入	30,612	379,200	672,300	293,100
財務活動支出	188,791	189,953	196,766	6,813
財務活動収支差額	△158,179	189,247	475,534	286,287
収支差額 合計	△1,295,772	△1,391,000	△1,991,750	△600,750
一般財源充当額	1,295,772	1,391,000	1,991,750	600,750
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	特徴的な事項
投資活動支出	(仮称)健都ライブラリー整備、中央図書館耐震補強等改修工事経費、備品及び閲覧用図書の購入
財務活動収入	地方債借入

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
貸出1点あたりコスト	平成30年度	3,604,632 点	331 円	貸出1点あたり595円のコストが前年度に比べ236円増加している理由は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令による休館で貸出点数が少なくなったためと、中央図書館耐震補強等改修工事及び(仮称)健都ライブラリー整備関係費の経費が多くなったためです。
	令和元年度	3,294,311 点	359 円	
	令和2年度	2,559,423 点	595 円	
予約1件あたりコスト	平成30年度	1,095,730 件	1,088 円	予約1件あたり1,348円のコストが前年度に比べ265円増加している理由は、中央図書館耐震補強等改修工事及び(仮称)健都ライブラリー整備関係費の経費が多くなったためです。(令和2年度から指標が予約受付件数に変更となりました。)
	令和元年度	1,091,150 件	1,083 円	
	令和2年度	1,130,473 件	1,348 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	209,779	252,896	43,117
未収金	30	-	△30	地方債	90,668	119,802	29,135
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	29,644	32,209	2,565
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	55,108	66,524	11,417
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	34,360	34,360	-
事業用資産	3,145,191	4,459,595	1,314,404	固定負債	1,444,675	2,217,434	772,759
有形固定資産	750,514	750,514	-	地方債	778,708	1,331,206	552,498
土地	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建物・工作物	1,762,842	3,391,673	1,628,831	退職手当引当金	288,004	293,160	5,157
リース資産	55,108	315,989	260,882	リース債務	-	249,465	249,465
建設仮勘定	576,728	1,419	△575,309	その他固定負債	377,963	343,603	△34,360
無形固定資産	1,459	1,459	-	負債の部合計	1,654,454	2,470,330	815,876
有形固定資産	-	-	-	純資産	3,730,813	4,431,803	700,990
土地	-	-	-	重要物品	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	図書館資料	2,220,350	2,348,230	127,881
建設仮勘定	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
重要物品	18,237	92,849	74,612	出資金	-	-	-
図書館資料	2,220,350	2,348,230	127,881	長期貸付金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	基金	-	-	-
出資金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	その他債権	-	-	-
基金	-	-	-	資産の部合計	5,385,267	6,902,133	1,516,866
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
負債及び純資産の部合計	5,385,267	6,902,133	1,516,866				

Ⅲ 財務構造分析

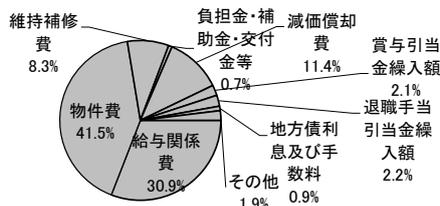
▽人にかかるコストの内訳

	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	
事業従事人数	49.42人	6,606日	14日	
給与関係費等	387,855千円	148,674千円	117千円	合計(千円) 536,646
内、時間外勤務手当	8,200千円			

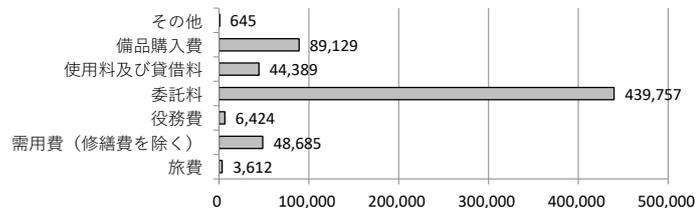
貸借対照表の主な増減理由(特微的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	中央図書館耐震補強等改修工事及び健都ライブラリー取得により1,729,199千円の増、既存館の減価償却により100,368千円の減
リース資産	図書館システムのリース資産に係る債務の借入により260,882千円の増
図書館資料	中央図書館耐震補強等改修工事及び健都ライブラリー開館に係る貸出閲覧用資料(図書・視聴覚資料)の購入等により127,881千円の増

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立中央図書館ほか9施設
取得年月日	昭和46年(1971年)10月1日ほか
建物・工作物の取得価額	4,782,016千円
建物・工作物の減価償却累計額	1,390,343千円
利用料金収入	-千円

▽分析指標

分析指標	(単位:%)				
	年度	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		0.2	0.1	2.7	2.6
施設老朽化比率		40.0	42.3	29.1	△13.2
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		97.4	77.0	69.5	△7.5
経常費用対公共資産比率		39.0	38.7	31.9	△6.8

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

事業にかかるコスト全体の41.5%が物件費で、そのうち委託料が69.5%を占めています。委託料の約6割は人件費に相当する窓口等業務委託料で、図書館の人件費と合わせると、経常費用48%が人的経費となります。市内の図書館の施設老朽化率は、令和元年度42.3%でしたが、健都ライブラリー建設工事と中央図書館耐震補強等改修工事の完了に伴い、令和2年度は29.1%と低くなりました。国や府からの補助金以外の収入として、営業者から支払われる駐車場などの行政財産使用料(915千円)やレシート広告などの広告料収入(72千円)など一部収入がありますが、69.5%が税金などの一般財源でまかなわれている事業です。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

事業コストのほとんどが窓口等業務委託料を含む人的経費です。255万点を超える貸出に係る業務、113万点を超える予約受付に係る業務、読書活動推進に係る業務、資料の調査相談など、図書館サービスに必要な経費であると判断しています。令和2年度は健都ライブラリーの供用開始、耐震補強等改修工事を終えた中央図書館の再開館に伴い、貸出点数の増加を見込んでおりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、市内の全図書館を臨時休館した影響から減少となりました。臨時休館期間中は、市民の外出自粛を促し、在宅時間を過ごす材料として予約資料の貸出を継続実施したことにより、予約受付件数については令和元年度を上回ることであります。健都ライブラリーの開館により市内10館となった図書館サービス網において、市職員の司書がさらに市民の読書活動を専門的・継続的に支援し、市民が気軽に参加できる文化・教養講座や子供向け行事等の開催をコストをかけずに取組み、貸出点数等の増加を目指します。また、今後の施設整備関係につきましては、北千里分室は「北千里小学校跡地複合施設建設整備基本計画」に基づき、狭あい及び老朽化を解消するため、令和4年度開館を目指し、整備を進めています。江坂図書館については、「江坂公園の魅力向上事業」において、令和4年度以降に狭あいを解消し、施設の改修を行う取組みを進めています。収入については、図書館法第17条で入館料その他図書資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならないとされており、基本的に無料の施設であるためほとんどありませんが、一般財源を少しでも減らせるように、貸出レシートへの掲載に係る広告収入等、歳入の確保に努めており、今後も引き続きコスト削減を検討していきます。